

『人体の構造と機能』第1集全4巻 苦手意識をもちやすい 解剖生理理解のコツを 伝授してくれる映像教材

監修：山内豊明／定価：各巻 32,000 円＋税，4 巻セット 128,000 円＋税
発行：株式会社ビデオ・バック・ニッポン／TEL：03-3405-3173



看護の初学者にとって「人体の構造と機能」という科目は、言葉の難解さに加えて、人の体を立体的にイメージしながらとらえることが難しいため、「解剖生理は苦手」という声が毎年のように聞かれる。それらの声に対し、本 DVD は画像やイラストが豊富に使われており解説も日常の事柄をたとえにしたわかりやすいもので、1 巻ごとの視聴時間も学習に集中できるようにコンパクトに構成されている点で、副教材として手軽に活用できる内容となっている。

第 1 巻「解剖生理学総論」は、解剖学の基礎知識から解剖学的用語の説明までをまとめている。このなかで、人体は細胞・組織・器官・器官系という階層性により成り立っているという説明は、人の体の構成を明確に示しており、病気を理解するにあたって、なぜ細胞レベルから学習する必要があるのかという根拠となっている。第 2 巻「生命活動と恒常性Ⅰ」は、人体の構成と遺伝子・染色体について説明されている。細胞やミトコンドリアという、学生がアレルギーになりそうな言葉は、わかりやすいイラストと卵の殻、発電所といったたとえを用いた説明により、できるだけイメージしやすいものとして学習を進められるようになっている。また組織の分類では、上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織の分類について、表面を覆う、支える、動かす、コントロールするといった、

平易でありかつ端的な表現により理解しやすいものとなっている。

第 3 巻「生命活動と恒常性Ⅱ」は、内部環境の恒常性と調整、生体リズム、体熱産生と体温で構成されている。外気温や運動といった環境の変化に対して、人の体内は常に一定に保たれているという定義をふまえて解説され、病気のほとんどがホメオスタシスの失調の結果であるとして、人の健康や異常を考える上での基本となるとまとめている。第 4 巻「皮膚と粘膜」は、皮膚の構造と機能と体内の膜で構成され、皮膚の観察は看護でも重要な役割があるとし、皮膚色の変化は病気のサインであることや熱傷の重症度と皮膚の構成の関係についてポイントが示されている。そして皮膚と粘膜は各臓器を守り生命現象を守る大事な役割があることを述べている。

このように本 DVD は、看護学生にとって苦手意識をもちやすい解剖生理学の学習を、授業の前後の予習復習や実習の事前学習として、楽しみながら行えるような工夫が随所に施されている。また「ここでポイント」という臨床現場において必要な知識やコツを伝授してくれるコーナーもあり、看護学生だけでなく、現場で働く看護師などにも推薦したい内容であり、さまざまな活用方法が期待できる。